

動向

中国における中日語彙対照研究の動向 2017

施 暉

はじめに

中日語彙についての対照研究は、今期も前期と同様依然として活発であるように見受けられる。本稿では、2016年下半年から2017年上半年までの一年間における中日語彙対照研究に関する論考を取り上げ、その動向を展望する。筆者が目にした研究を、テーマ別に項目を立て、取り上げるが、各項目への振り分けはあくまで便宜的なものである。第一項目は主として『日語学習与研究』、『東北亜外語研究』及び『漢日語言対比研究論叢』等の学術誌等に掲載された論考を「学術論文」として、第二項目は修士論文と博士論文を「学位論文」として、第三項目は対照研究に関する著作を「著書」として扱うこととする。

1. 学術論文

「漢日語彙対比」をキーワードとして調べたところ、8本の論考が見付かった。その内訳は中日同形語についての研究2本、中日借用語に関する研究2本、中日固有語の意味用法についての研究2本、「性向語彙」と慣用語についての研究それぞれ1本ずつである。以下それらの論考を取り上げて研究の動向を紹介する。

1.1 中日同形語についての対照研究

施建軍、譙燕《中日同形詞意義用法距離的計量研究—以對譯比構建的 F-measure 為尺度（中日同形語意味用法の隔たりに関する計量的研究—對比によって構築される F-measure を尺度として—）》は、まず従前研究において中日同形語について分けられた「同形同義」「同形異義」「同形近義」という三分類に対して疑念を提示した上で、その分類があまりにも漠然としていて、中日同形語の細かい相違点について記述しかねると指摘している。それは中日同形語の意味用法に関する差異とえば、多岐にわたるものとして中日語彙体系において捉えるべきとしているためである。同稿は従来の三分類の不足を克服すべく、予測結果の評価尺度の一つである F-measure を導入し、中日同形語の意味用法を巡ってその異同を考察し、記述したものである。また、研究資料としては中日対訳大規模コーパスを生かしながら、中日対訳データベースにおける中日同形語の対訳比率を統計したことによって明らかになった F 値を通して、中日同形語の意味用法の隔たりの加減を量っている。

施建軍、洪潔《基于语义组合关系的汉日同形词意义对比研究（意味結合に基づく中日同形語の意味についての対照研究）》は、主に辞書類を資料として行った先行研究と異なり、大規模コーパスを活用しつつデータベースから中日同形語の共起語群を検出した。例えば、中日同形語としての名詞「白紙」、動詞「処理」、形容詞「貴重」、副詞「大体」及び品詞の違った「関心」等である。施と洪はそれらの言葉を中心に中日同形語と共起する語の意味上の相関関係を考究した上で、中日同形語の意味範囲、抽象と具体、消極と積極等といったような意味用法の差異について言及している。

1.2 借用語についての対照研究

劉凡夫《中日两国词语共时性互动研究（中日両国語の共時的な研究）》は、1980年代以降の新聞、新聞オンラインサイト及び新語辞典を研究資料として調査し、また主として次の3つの視点から分析を行った。1. 現代中国語における日本語出自の新語、2. 現代中国語における新語、3. 現代中日両国

語の借用語の比較と分析、という見地に立脚して、中日両国語の借用語についてその借用方法、類型、使用範囲及び影響等を巡って考察するとともに、中日両国語の相互影響に関する諸要素についても探った。

朱京偉《〈译书汇编〉(1900-1903) 中的三字日语借词 (『訳書彙編』(1900-1903) における三文字日本語出自の借用語)》では、『訳書彙編』に用いられている3文字構成の漢語を巡って定量的かつ総合的に分析を行った結果、主として以下のことが明らかになった。『訳書彙編』には2字+1字という語構成の三文字語が486語あったが、その出自について調査したところ、清朝後期に発行された新聞より早く日本語に登場していた語数が91%に達しており、対して日本語には確認できなかった語数はわずか5.8%に止まっていた。一方、日本語の用例が清朝後期の新聞より遅かった語数の割合は3.3%に過ぎない。かかる割合から『訳書彙編』に現れる三文字語は日本語出自の語が圧倒的に多かったが、中国人が自ら創出した語はごくわずかであった、と同時に、日本語の三文字語が清朝後期に中国語の三文字語の形成にも多大な影響を与えたと言ってよからうと指摘している。

1.3 中日固有語彙についての対照研究

余弦、関春影《汉日前提触发语“又”与「また」的前提对比研究(中日前提トリガーとしての“又”と「また」によって表される前提についての対照研究)》は、まず、前提トリガーとは前提を生じさせる表現を指すが、語形式に止まらず、連語形式なども含めると説いている。続いて、中日両言語における前提トリガーとしての副詞“又”と「また」に焦点を当てて考察、比較を行ったところ、以下のことが明らかになった。1. 両者ともこれまでに起きた同じ出来事または同一の事柄が再び発生することを表し、また、いずれも顕在の前提と潜在の前提にも用いられること、2. 両方とも後続文にかかること、3. “在”(で)などのような後置詞と共起する場合はその後置詞の前後に置けることである。その結果、“又”と「また」は意味用法としては極めて類似しているため、相互対訳できるのではないかと結論付けている。

疏蒲劍《低量表达的汉日对比研究—以「少し」和“有点儿”/“一点儿”为对象（少量を表す表現の中日対照研究—「少し」と“有点儿”“一点儿”を対象に—）》は、「少し」と“有点儿”“一点儿”の意味用法上の対応関係を中心に考察し、次のことが解き明かされている。日本語の「少し」は「潜在的比較」、「顕在的比較」及び「省略的比較」のいずれにも使用される一方、中国語の“有点儿”と“一点儿”はそれぞれ「潜在的比較」と「顕在的比較」にのみ使われるが、「省略的比較」での使用はどちらでも可能である。なお、“一点儿”は相対空間の位置と数量を表すのにも用いられ、「少し」は“有点儿”“一点儿”には見られなかった動作や時間の少量を表すこともできるが、この意味用法は“一会儿”或いは“一下”というような中国語にも対訳できる。さらに、「程度副詞判断尺度モデル」を併せて提示しており、「少し」と“有点儿”が何故プラス的な評価に使いかねるかという理由の解明にも役立っている。

1.4 性向語彙、慣用語等についての対照研究

施暉、欒竹民《“性向词汇”的汉日对比研究—以“话多的人”为例（中日両言語における「性向語彙」の対照研究—「口数の多い人・おしゃべり」を対象に—）》では、延べ語数と異なり語数という語彙統計法で中日両言語の「性向語彙」について調査、分析した上で、対照研究を行った結果、以下の3点が明らかにされている。1. 第67意味項目（全部で111意味項目あり）の「数の多い人・おしゃべり」に表れる「性向語彙」は、マイナス評価語が数量としてプラス評価語を遥かに上回っているだけでなく、対人評価において多様性と多重性を呈出しているという特徴も浮き彫りになって、両言語の共通点を見せている。ことに、ここでは日本人の「負の原理」が一層際立って、「言わぬが花」という日本言語文化の特質が投影されている。2. 男女差においては中日両国の女性はいずれも「口数多く、よくしゃべる」という特徴を呈しており、性別差が明白となった。3. 中日両国の人々はともに対人評価は擬自然喩、擬人喩及び身体喩等の比喩表現を大量に駆使しており、文学作品や辞書類の比喩と違った一面を見せた。このような比喩表現は

対人評価を簡潔で、面白く、生き生きとさせるという語用的な効果を発揮している」と指摘している。

鐘倩《日汉“耳”类惯用语的语义认知对比分析（日中両言語における「耳」の慣用語に関する意味認知の対照研究）》は、認知言語学の研究方法を援用して、辞書とコーパスから抽出した日中両言語の「耳」に関する慣用語の意味用法を巡って分析、比較を行った。主たる論点は以下の3点である。1. 「耳」の慣用語の周辺義はいずれも中心義と連結している。2. 「耳」の慣用語意味拡張は「耳」本来の機能を母胎に「換喩」を主、「隱喩」を従とする認知プロセスによって実現されている。3. 「耳」に関する日中両言語の慣用語派生義においては類似点を見せており、両国人の認知及び経験における同一性を反映しているが、もちろん相違点の存在も否定できないと説いている。

2. 学位論文

2.1 中日両言語に関する対照研究

認知言語学の理論と方法を生かして中日両言語についての対照研究を行った修士論文は2本あった。そのうち、童荷《从认知语言学看中日空间到时间的隐喻认知（認知言語学を通して空間から時間への中日の隱喩認知について考察する）》は、まず概念メタファーを援用しながら空間域から時間域への転移プロセスについて検討した。続いて、中日辞典から上下と左右を軸とする空間から時間に転用した隱喩表現を抽出し、中国語の“前”“后”と日本語の「前」「先」「後ろ」等を中心に分析、比較を行った上で、中日両言語の共通点と相違点について併せて記述している。

また、文化言語学的な視点による中日両言語の対照研究も見られる。鄒環《从拟声拟态词的比较看中日文化的不同（擬声擬態語による中日文化の異同についての対照研究）》では、まず喜怒哀楽にまつわる表現及び広告のキャッチフレーズ、色彩語彙に関する擬態語を切り口に、中日両言語における擬声語擬態語の音節構造、音声特徴等の異同について分析、比較を試みた。その上で、中日両国の自然環境、風土等によって両言語の差異が生じた要因につ

いても考察を深めている。

余丹菊《从词汇看中日“耻”文化的比较研究（言葉による中日両国の「恥」文化の対照研究）》は、「恥」に関する四字熟語と慣用語を研究対象に、中日両国の「恥」文化の特徴及びそれによって投影されている文化的な様相について考察している。

掲蕾蒙《中日“狐”谚语的对比及其文化背景（中日両言語の「狐」にまつわる諺についての比較と文化背景）》では、「表象」と「意義」を考察の主眼として中日両言語における「狐」の諺を三分類した上で、具体例を踏まえながら中日両言語の「狐」の象徴性の異同及びその違いを産出させた両国の文化要因について探求している。

古効婷《有关中日“苦”的对比研究（中日両言語の「苦」についての対照研究）》は、「苦」という語源、複合語の構成、中日両言語の対訳という角度から両言語における「苦」表現の共通点と相違点を探っている。

楊茜《中日网络语的对比研究（中日両言語のネット用語についての対照研究）》は、音通、頭文字、転用、符号及び独自創出等の視点を通して中日両言語のネット用語の生成プロセスについて分析、比較を試みた。

2.2 借用語、中日両言語の同形語、字音語についての対照研究

翟文毓《论中国年轻人用语中日源外来词的现状（中国の若者言葉における日本語出自の外来語について）》では、『人民日報』を対象として1949年から2015年までに日本語から中国語に進入した所謂「日本語出自の外来語」を調査、収集した。抽出した各時期に用いられた代表的な外来語について、中国というコンテキストにおいて「日本語出自の外来語」の使用範囲、意味用法の変化の有無等を考究している。続いて、中国の若者の「日本語出自の外来語」の使用意識についてもアンケート調査を通じて考察している。

蘇文静《关于中日同形词的对比研究（中日両言語の同形語についての対照研究）》は、「固執」「執着」「拘泥」という中日両言語の同形語を研究対象として辞典やコーパスから用例を抽出した上で、品詞、意味用法、文法機能及び連語形成等において両言語の異同について分析、比較を行っている。

李琴《关于中日汉字词的对比研究（中日両言語の字音語についての対照研究）》は、言語移動理論を援用しながら、字音語を「中日同形語」「異形同義語」「鏡像語（反転語）」の三つに分けて、両言語における字音語が互いに接触、衝突しながら語形式、意味用法において独自の発展を遂げてきたことについて対照研究を試みた。

3. 著書

3.1 徐靖《空间与认知—汉日惯用语对比（空間と認知—中日両言語の慣用語に関する対照研究一）》（西安交通大学出版社、2016年）は、以下の五章からなる。

第1章 慣用語研究综述（慣用語研究についてのレビュー）

- 1.1 什么是惯用语（慣用語とは何か）
- 1.2 汉语惯用语研究综述（中国語の慣用語研究についてのレビュー）
- 1.3 日语惯用语研究综述（日本語の慣用語研究についてのレビュー）
- 1.4 汉日惯用语对比研究综述（中日慣用語の対照研究についてのレビュー）

第2章 方所词和方所惯用语（方向場所語とその慣用語）

- 2.1 方所词研究综述（方向場所語研究についてのレビュー）
- 2.2 方所词的界定（方向場所語の定義）
- 2.3 日语方所惯用语（日本語の方向場所慣用語）
- 2.4 汉语方所惯用语（中国語の方向場所慣用語）

本章参考文献（参考文献）

第3章 方所惯用语的认知投射（方向場所慣用語の認知投射）

- 3.1 概念隱喻、概念转喻（概念メタファー、概念メトニミー）
- 3.2 概念转喻与方所表达方式（概念メトニミーと方向場所語の表現形式）
- 3.3 概念隱喻与方所表达方式（概念メタファーと方向場所語の表現形式）

式)

3.4 慣用語与棱柱形模型 (慣用語と棱柱形モデル)

3.5 汉语方所慣用語の認知投射 (中国語の方向場所慣用語の認知投射)

3.6 日语方所慣用語の対応关系 (日本語の方向場所慣用語の対応関係)

本章参考文献 (参考文献)

第4章 汉日方所慣用語对比 (中日方向場所慣用語についての対照研究)

4.1 日语方所慣用語の汉译考察 (日本語の方向場所慣用語の中国語訳による考察)

4.2 汉语方所慣用語の日译考察 (中国語の方向場所慣用語の日本語訳による考察)

4.3 汉日方所慣用語の対応关系 (中日方向場所慣用語の対応関係)

本章参考文献 (参考文献)

第5章 認知激活の動因 (認知活性化の要因)

5.1 語言的共性和个性 (言語の共通性と特殊性)

5.2 規約性語認知激活 (慣用語の認知活性化)

5.3 慣用語教學策略 (慣用語教授の方略)

本章参考文献 (参考文献)

本書参考辞典 (本書参考辞典)

語料庫 (コーパス)

3.2 施暉・欒竹民《中日韓三国“性向词汇”及文化比較研究 (中日韓三国語における「性向語彙」及び文化についての対照研究)》(外語教學与研究出版社、2017年)は以下の通りである。

目録 (目次)

第一章 緒論 (序論)

1. 性向词汇の研究現状 (性向語彙に関する研究の回顧)
2. 研究的目的和意义 (研究目的と意義)
3. 主要内容和研究方法 (内容概要と研究方法)

4. 調査概要和方法（調査概要と方法）
5. 有关中日韩三国人与文化方面的先行研究概述（中日韓三国人と文化に関する先行研究のレビュー）
6. 注释（注釈）

第二章 中日韩三国性向词汇的量化分析与比较（中日韓三国語における性向語彙の定量分析と比較）

1. 三国性向词汇总量的分析与比较（三国性向語彙の総語彙数についての分析と比較）
2. 三国性向词汇排名前十位与后十位的分析与比较（三国性向語彙の語彙数順位の上位10と下位10意味項目についての分析と比較）
 - 2.1 三国性向词汇“不重”与“重”排名前十位的分析与比较（三国性向語彙の異なり語数と延べ語数の語彙数順位の上位10意味項目についての分析と比較）
 - 2.2 三国性向词汇“不重”与“重”排名后十位的分析与比较（三国性向語彙の異なり語数と延べ語数の語彙数順位の下位10意味項目についての分析と比較）
3. 三国社会群体与大学生性向词汇“不重”排名前十位的分析与比较（三国社会人と大学生性向語彙の異なり語数と延べ語数の語彙数順位の上位10意味項目についての分析と比較）
4. 三国社会群体与大学生性向词汇“不重”排名后十位的分析与比较（三国社会人と大学生性向語彙の異なり語数と延べ語数の語彙数順位の下位10意味項目についての分析と比較）
5. 三国性向词汇“不重”排名前十位男女差异的分析与比较（三国性向語彙の異なり語数として語彙数順位の上位10意味項目の性別差についての分析と比較）
6. 三国性向词汇“不重”排名后十位男女差异的分析与比较（三国性向語彙の異なり語数として語彙数順位の下位10意味項目の性別差についての分析と比較）
7. 注释（注釈）

第三章 中・日・韓三国性向词汇排名前十位语义小项的分析与比较（中日韓三国語における性向語彙の語彙数順位の上位10意味項目についての分析と比較）

1. 有关评价工作学习能力、欲望方面的语义小项（仕事に対する意欲・能力のある人）
 - 1.1 三国第1小项“能干的人”（第1意味項目「働き者」）
 - 1.2 三国第3小项“做事快、很得要领的人”（第3意味項目「仕事の速い人・要領のよい人」）
 - 1.3 三国第7小项“比别人都努力的人”（第7意味項目「人一倍仕事に熱中する人」）
2. 有关嗜好、性格方面的语义小项（具体的な動作・行為の様態を踏まえた恒常的な性向に関するもの）
 - 2.1 三国第16小项“特别爱干净的人”（第16意味項目「特別にきれい好きな人」）
3. 有关人际关系方面的语义小项（人間関係に関わるもの）
 - 3.1 三国第55小项“大方的人”（第55意味項目「気前の良い人」）
 - 3.2 三国第99小项“善于交际、好接触的人”（第99意味項目「人付き合いの良い人、親しみやすい人」）
4. 有关语言性向方面的语义小项（言語活動の在り方に関するもの）
 - 4.1 三国第67小项“话多、爱闲聊的人”（第67意味項目「口数の多い人、おしゃべり」）
 - 4.2 三国第69小项“能言善辩的人”（第69意味項目「口の達者な人、能弁家」）
5. 有关人品、人格方面的语义小项（人柄の善悪に関するもの）
 - 5.1 三国第109小项“爱面子的人”（第109意味項目「面子を重んずる人」）
 - 5.2 三国第110小项“个性强的人”（第110意味項目「個性の強い人」）
 - 5.3 三国第111小项“嫉妒心强的人”（第111意味項目「嫉妬心の強い人」）

6. 注释（注釈）

第四章 结语（結論）

附录（付録）

本书使用符号等说明（凡例）

参考文献（参考文献）

调查表／汉语版（調査票／中国語版）

资料篇（資料編）

中日韩三国“性向词汇”总词汇表（三国性向語彙の総語彙表）

おわりに

2008年に発足した「漢日対比語言学研究会」の発展、学会活動の活発化に伴って、近年、中日両言語の対照研究の気運は一層高まり、学会員が多く研究成果を上げている。今後も大いに研究の進展が期待されよう。以上で今期中日語彙対照研究の動向を終える。紙幅に収めることができなかった論考がいくつもある。ひとえに筆者の力不足に帰する。見落とし、読み誤り等についてはご寛恕いただければ幸甚である。

参考文献

- 古效婷（2016）《有关中日“苦”的对比研究》[D]，苏州大学。
- 揭蕾蒙（2016）《中日“狐”谚语的对比及其文化背景》[D]，重庆大学。
- 李琴（2016）《关于中日汉字词的对比研究》[D]，哈尔滨理工大学。
- 刘凡夫（2016）《现代中日两国词语共时性互动研究》[J]，《日语学习与研究》，第6期，55-64。
- 施暉・栾竹民（2017）《“性向词汇”的汉日对比研究—以“话多的人”为例》[J]，《东北亚外语研究》，第2期，50-67。
- 施暉・栾竹民（2017）《中日韩三国“性向词汇”及文化比较研究》[M]，外语教学与研究出版社。
- 施建军・譙燕（2016）《中日同形词意义用法距离的计量研究—以对译构建的 F-measure 为尺度》[J]，《解放军外国语学院学报》，第4期，76-84。
- 施建军・洪洁（2017）《基于语义组合关系的汉日同形词意义对比研究》[J]，《汉日语言对比研究论丛》，第8辑，236-246。

- 疏蒲剑 (2017) 《低量表达的汉日对比研究—以「少し」和“有点儿”/“一点儿”为对象》
[J], 《汉日语言对比研究论丛》, 第8辑, 208-220.
- 苏文静 (2016) 《关于中日同形词的对比研究》[D], 西南大学.
- 童荷 (2017) 《从认知语言学看中日空间到时间的隐喻认知》[D], 西南交通大学.
- 徐靖 (2016) 《空间与认知—汉日惯用语对比》[M], 西安交通大学出版社.
- 杨茜 (2016) 《中日网络语的对比研究》[D], 天津理工大学.
- 余丹菊 (2016) 《从词汇看中日“耻”文化的比较研究》[D], 云南大学.
- 余弦·关春影 (2017) 《汉日前提触发语“又”与「また」的前提对比研究》[J], 《日语学习与研究》, 第2期, 69-75.
- 翟文毓 (2016) 《论中国年轻人用语中日源外来词的现状》[D], 青岛大学.
- 钟倩 (2017) 《日汉“耳”类惯用语的语义认知对比分析》[J], 《广东外语外贸大学学报》, 第2期, 47-53.
- 朱京伟 (2017) 《《译书汇编》(1900-1903)中的三字日语借词》[J], 《汉日语言对比研究论丛》, 第8辑, 221-235.
- 邹环 (2016) 《从拟声拟态词的比较看中日文化的不同》[D], 辽宁大学.

施暉 Shi Hui 蘇州大学外国語学院教授 専門：日本語学・日中言語文化比較